

## 県立幼稚園設立の動機と経過

立川 多恵子

(十文字学園女子短大)

### 1、はじめに

郷土の保育史に興味を持ち、しばらく研究を続けてきた。第41回保育学会では埼玉県における国公立幼稚園の設立とその発展に焦点を絞って発表した。それが県立幼稚園の存在に興味を持つきっかけとなり、全国の県立幼稚園について、どんな設立動機を持っているか、各園はどの様に発展しているか知りたくと考え、下記のような調査研究をしたので報告する。

ここで取り上げた幼稚園は現時点で県立として認められている幼稚園に限る。

### 2、研究方法

#### ① アンケート調査

#### ② 資料収集

幼稚園案内 記念誌 沿革史等

#### ③ 関係者に対する面接調査

### 3、研究結果

全国的に見ても県立幼稚園の数は21園に過ぎない。しかも独立園はなく、県立高等学校付属又は併設園、県立短期大学付属、県立大学付属いずれかの形をとる。

どの園も2学級から5学級の規模である。園長は所属長の場合が多い。併設園は専任園長を有する。

#### (1) 県立高等学校付属幼稚園

##### ①保育科実習園としての役割

数ある県立高校の中で保育科を設置している高校は13校ある。しかし保育実習のための幼稚園を持っている高校は埼玉県立鴻巣女子高校、新潟県立では新潟中央高校、長岡大手高校、柏崎常盤高校の3校、静岡県立磐田北高校である。

埼玉県立鴻巣女子高校は昭和41年に家庭科教育振興のため家庭科を設置し、食物、保育の2コースに分ける。しかし保育資格取得は不可能という理由で昭和42年度から保育科を設置した。

実習は当初地元の保育園、幼稚園を協力園として利用していたが、教育効果を高めるため高校側では校内に実習設備を持つことを望んだ。校内に児童福祉施設を作ることが難しかったので、県教育委員会では幼稚園の設立を実現させる。

新潟県の3つの県立高校付属幼稚園は第2次大戦中の昭和18年3月に高等女学校規定が改正され、高等女学校に幼稚園または託児所を付設することが勧奨されると、県内各地の中心的女学校に付設保育所として設立されたものである。

戦後の学制改革によって高等女学校が新制高校に移行した後も付属保育所はそのまま県立高校付属保育所として存続した。昭和29年になって高校に保育科が出来ると、早速実習園としての役割を果たすようになった。昭和41年4月には県立高校付属幼稚園し改組している。

静岡県立磐田北高校付属幼稚園も第2次大戦中に県立女学校保育寮として発足、戦後女学校付設保育所と改称し、一時同窓会立のような形をとったりしたが、昭和27年になってやっと県に移管され、翌年に静岡県立磐田北高校付設幼稚園になる。昭和30年には高校に保育科ができ実習園となる。

#### ② 伝統を守り、地域の幼児教育振興に寄与する

##### 幼稚園

鳥取西高校付属久松幼稚園は歴史も古く明治39年に設置されているが、県立高校付属12園中7園は第2次大戦中に設立されている。この時期に設立された県立幼稚園は前述の新潟県立の3園、静岡県立磐田北高校の他に栃木県立宇都宮女子高校付属、埼玉県立浦和第一女子高校付属、香川県立丸亀高校付属である。

これらの県立幼稚園が創設された18年―19年には高等女学校規定が改正され、国の方針として高等女学校に幼稚園又は保育所を付設することが奨励された。

当時文部省としては高等女学校が「中堅皇国民錬成」を目指す教育内容として家政科では「皇国女子ノ任務ヲ自覚セシムル共ニ」「主婦タリ母タルノ徳操ヲ涵養スルコト」を目指し、このための育児実習の場として幼稚園・保育所を位置づけたのである。

例えば栃木県ではこれを受けて昭和18年12月に宇都宮第一高等女学校長宛に「女子中等学校保育所施設費補助ニ関スル件」として次の様な通達を出している。

サキニ閣議決定ヲ見タル戦時学徒動員確立要綱ニ基キ、教育錬成内容ノ一環トシテ女子中等学校ニ常設的保育所ヲ設置セシメ、家政教育ノ充実ヲ図ルト

共に女子学徒ヲシテ戦力増強ニ寄与セシムルコト相成、本県ニオイテ貴校ニ之ヲ設置スルコトト相成タルニ付左記ニヨリ至急計画書その他提出相成度。

(以下略)

これに対して校長は早速この要請を受け入れ、必要書類を知事宛に出すと共に、文部省にも設置申請書を提出している。それには設置理由として、家政教育の充実と、生産力拡充のため就労する婦人の子女を保育し戦力増強に寄与するためと記されている。設立は昭和19年2月であり創設当時の園の名称は操保育園となっている。

要するに昭和18年—19年に設立された県立高等女学校付属の保育施設は、文部省の勸奨により婦徳高揚を目的とした実地訓練の場と、勤労婦人の子女の託児機能の充実のため生み出された保育施設と考えることができる。それは戦時中の国民生産増強にもつながった。戦争が激しくなると、園によっては休園せざるを得ない園も出た。しかし戦争が集結すると再開され学制改革後は県立高校付属幼稚園として再出発して今日に至っている園が多い。

県立高校付属幼稚園で戦後設立されたのは埼玉県立鴻巣女子高校付属幼稚園1園であり、併設園では神奈川県立横浜幼稚園、平塚江南幼稚園、上溝幼稚園の3園がある。横浜幼稚園は昭和24年に幼児教育の重要性を主張する当時の教育委員の強い働きかけによって県立横浜第一女子高校(現在の平沼高校)に併設される。翌年平塚江南、上溝の2つの高校にそれぞれ幼稚園が併設される。

各園とも設立当初は家庭科の実習等が行われていたが高校カリキュラム変更により家庭科の履修単位もなくなり、実習する余地がなくなる。したがって創設当初の高校の実習園としての役割を失うが県内公立幼稚園のリーダー的存在だったり、研究の中心校だったりして、県内の幼児教育の振興に寄与している。

ところが最近残念なことに横浜幼稚園(平沼高校付属)は本年3月、平塚江南(江南高校付属)上溝(上溝高校付属)の2園は平成3年に廃園の予定である。

## (2) 県立短期大学付属幼稚園

県立短大の付属幼稚園は、盛岡短大付属こまぐさ、新潟女子短大付属、長野県短大付属、滋賀県立短大付属、姫路短大付属、福岡県社会保育短大付属、長崎県立女子短大付属の7園である。

昭和30年後半から40年始め幼児教育の重要性が

強調され、各地に幼稚園が設立され、教員不足が深刻になると、行政も積極的に保育者(幼稚園教諭及び保育所保育)養成を考えるようになった。その結果県立短大の新設、保育科の増設が具体化する。付属幼稚園は長崎女子短大のように県立女学校付属として第二次大戦中に作られた保育所が基礎になって短大設立当初から付設されている場合もあるが、他は関係者の努力により保育科学生の教育実習の場として3年から5年の歳月をかけ設立される。

しかし県立幼稚園の使命はそれだけではない。どの園も学生の実習園に止まらず、保育内容の実証的研究や地域の幼児教育推進のリーダー的存在になっている。

## (3) 県立大学付属幼稚園

県立の4年制大学付属幼稚園は、愛知県立大学文学部付属、山口女子大付属の2園である。

愛知県立大学は、昭和25年国文科、英文科のみの県立女子短大としての発足したが、昭和26年児童福祉科を増設する。その後昭和32年短大が4年制女子大学に移行されると、昭和33年に設置された付属幼稚園は、大学の付属機関として児童福祉学科の学生の教育実習の場と、幼児教育実践的研究機関としての役割を持つようになる。

その後大学が男女共学校になって、県立大学として(文学部、外国語学部、)の2学部で発足すると、児童福祉科は文学部児童教育学科に改組され、付属幼稚園も文学部に属するようになる。

山口女子大学付属幼稚園は昭和25年に県立女子短期大学付属幼稚園として発足、短大が4年制大学に移行すると山口女子大付属幼稚園と名称を変える。

## 4、まとめ

県立幼稚園は全国的に見ても数少ない。しかも小規模園である。したがってその存在も地味ではあるが、一園一園その歴史を見ていくと、設立動機を始めとして、その発展過程までそれぞれの園が独自の歩み方をしている。

伝統を尊重する園、他園に先がけて先導的指向を試みる園、県立幼稚園として全国的組織のないことが、それぞれの園の独自性を保持したと考えることも出来る。廃園になる園が出ることはまことに残念である。

それぞれの時代に関係者の並々ならぬ努力で設立された県立幼稚園、幼児教育の強力な推進役として今後も尊重して行きたい。